2026 年 10 月 5 日

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦および
日本ジオパーク新規認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、2026 年 7 から 9 月に現地調査を行った 1 地域のユネスコ世界ジオパーク国内推薦の可否と 2 地域の日本ジオパーク新規認定の可否について審議し、以下のとおり決定した。

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦決定：鳥海山・飛島ジオパーク
日本ジオパーク認定保留：大雪山カムイミンタラ、やまなし上野原

現在、日本ジオパークは 48 地域である（うちユネスコ世界ジオパークは 11 地域）。

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦決定

鳥海山・飛島ジオパーク

東北日本弧の形成、鳥海山の成長、象潟岩屑（きさかたがんせつ）なだれによる多島海の形成、1804 年の象潟地震による隆起まで、一連の大地の変動を理解できる優れた地域である。この地形・地質に育まれた生態系の調査と保全や、大地と深く関わる歴史・文化を生かした教育・観光活動が展開されている。建設中の中核拠点施設を活用し、地域全体の価値を効果的に伝える展示・運営機能を整備するとともに、世界のジオパークとの積極的な交流、海外からの来訪者の受け入れなど、持続可能な運営基盤のさらなる充実が期待される。

以上のことから、ユネスコ世界ジオパーク国内推薦を決定する。

日本ジオパーク認定保留

大雪山カムイミンタラ

大雪山火山群、神居古潭（かむいこたん）変成帯など多様な地形・地質遺産を有する地域である。

2012 年からの市民団体による活動を基盤に、自治体、国立公園、博物館、地域の各種団体、大学など多様な主体が協働して活動を展開している。大学の協力による教育活動や、アイヌ文化など地域の価値を次世代につなぐ取り組みは本地域の強みである。一方でジオパーク活動の可視化が不足しており、地域の地質資源の価値を来訪者に伝える野外の解説板などの早急な整備が必要である。また、1 市 7 町のさまざまな人材や活動の連携を強化して、日本遺産との相乗効果を図るなど、地域の持続可能な発展につなげることが求められる。

以上のことから、日本ジオパークとしての認定を保留することとする。

やまなし上野原

北部の関東山地と、南部の丹沢山地、その間の低地の３つの異なる地形・地質からなる。低地を流れる桂川の河岸段丘は住民の主な暮らしの舞台であり、甲州街道の宿場町や水資源確保の歴史も知ることができる。

2023 年に大学教員と民間事業者、市民有志が構想を立ち上げ、ボトムアップで様々な活動を積み重ねてきた。一方で熱心な活動を支える事務局体制が不十分であり、持続性を欠いている。早急に事務局体制を強化するとともに、基本計画を策定する必要がある。また、テーマやストーリーを一般の来訪者に理解してもらう工夫、それを基にしたガイドの育成や解説板の整備が必要である。

以上のことから、日本ジオパークとしての認定を保留することとする。

以上